

乗雲

寺報
第90号

H26.9.1 発行

編集人

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560
広厳寺
住職 神田英俊

メール

otera@kogonji.jp

花の香りは風に逆らいては行かず。梅檀（せんだん）もタガラもジャスミンも同じ。されど徳ある人々の香りは、風に逆らいても行く。徳ある人の香りは四方に薫る。

法句經

十月になると境内には金木犀の花が香ります。何とも言えない芳香を放ちます。しかし、風上にいるとその香りは漂いませぬ。しかし、すばらしい人の徳の香りは四方に薫るとお釈迦様は説きます。徳ある人には香りがあり、毎日を真剣に生きている人の香りは風上であつてもどの方向であろうとも、良い香りを放つものです。

「人間本来、自清浄」で、みな純真無垢なきれいな心、美しい心を持つて生まれてきますが、成長するにつれて社会や他人とのつながりの中で、次第に心に汚れや垢が染みついてきます。しかし、仏の教えに会い、従っていくうちに心は浄化され

自ずと四方に薫る徳が備わってくるものです。

インドに「三かく長者」という昔話しがある。三かくとは、三つの欠けているものことで、「恥かく、義理かく、欲かく」、これで大金持ちになった長者がいた。そんな長者もやがて年老いて死が近づいてきた。この場に及んでようやく気づいたことは財産なんて死後まで持っていられないということだった。そこで長者は息子に自分の葬式の時には、棺桶の両横に穴を開けさせ、両の手を左右に出して収めるように指示した。「これほど集めたお金も逝くときには何も持っていけない。みんな置いていかなければならない。空手で去るしかないぞ、こんな生き方はするな」と伝えるために。しかし、お葬式に集まった人々は、「あいつはあれだけ貯めてもまだ金が欲しいと手を出している」そんなふう

しか見えなかった。

「人は裸で生まれて、

裸で死んでいく」

持ち物よりも自分自身の生き方が大切であると教えている。逆風でも四方に薫る、徳の香りを身に付け、周囲に漂わせるような生き方をしたいものです。

HOOK BOOK 山水



第3号
「戒戒の要点」
〜授戒のお話〜

昨年五月の当寺授戒会 五日間の修行 戒師大本山永平寺副貫首 南澤道人老師の説戒が一冊の本になりました。説戒師をお務めくだされた宮崎県豊前寺住職 靈元丈法老師が「自分のお話しされたものをまとめたものです。とても分かりやすい仏教のお話です。」

戒戒の要点

〜授戒のお話〜
残部が少しありますのでお問い合わせください。

平成二十六年年度年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成二十五年
三回忌	平成二十四年
七回忌	平成二十年
十三回忌	平成十四年
十七回忌	平成十年
二十三回忌	平成四年
二十七回忌	昭和六十三年
三十三回忌	昭和五十七年
五十回忌	昭和四十年
百回忌	大正四年

*今年（平成二十六年）の年回忌表です。正当の各家には昨年十一月に通知しています。

*日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。

▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は九六年目が七回忌となる。